

施策 4

多様な課題に応じた支援の推進

1 いじめ・不登校の未然防止と対応（教育相談室）

● 事業内容

(1) いじめのアンケート、hyper-QU*による調査の実施

児童生徒の心の不調を早期に発見するため、いじめのアンケート（年4回以上実施）や「hyper-QU」を実施し、その結果をもとに学校と教育委員会が早期の対応を行います。また、児童生徒の相談に応じ、積極的にコミュニケーションを図るほほえみ相談員を活用する等、相談しやすい環境づくりに努めます。

※hyper-QU・・・いじめの発見と予防、学校崩壊の予防等を講じるため、楽しい学校生活を送るためのアンケート

担当課：教育相談室
R5 予算額：5,746 千円
R6 予算額：5,769 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・小4～中2は年2回(7月・11月)、中3は年1回(7月)に「hyper-QU」を実施しました。夏休みには、1回目の結果をもとに、専門家による研修会を実施し、各学級の特徴をとらえ、今後の学級経営について検討しました。また、集団に入ることができない児童生徒について、そのニーズに応じ、具体的な対策をとりました。
- ・いじめのアンケートを年4回実施しました。(約3か月に1回)

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・学校生活意欲・満足度調査委託料（小4～中2は2回、中3は1回実施） 5,359千円

成果・効果

- ・「hyper-QU」の1回目の結果を基に学級担任が個々への対応を見直し、指導に生かしたことで、全国平均と比較すると、学校生活満足群は全国平均43%、多治見市平均62%で約20%高く、学校生活不満足群は全国平均26%、多治見市平均16%で約10%低い結果となりました。また、各学校で研修を実施し、対策について示唆を受けたことで、経験の浅い教員にとっては、生徒指導対応へのよい研修となりました。

令和6年度取組予定

- ・小4～中2は年2回(7月・11月)、中3は年1回(7月)に実施を継続し、学校満足群の数値の変動を基に検証し、自己肯定感が育まれるよう取り組んでいきます。
- ・専門家による研修会を実施し、学級運営に生かしていきます。

(2) 小学校中学年への教育支援員の配置

小学校中学年の不登校の要因の一つである学業の不振を解消するため、教育支援員を重点校に配置し個別支援を行います。算数を中心とした学習支援を実施し、学習のつまずきによる不登校を未然に防ぎます。

担当課：教育相談室
R5 予算額： -
R6 予算額： -

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・令和3年度の問題行動調査において、小学生の不登校の理由として「学業の不振」があがったことや、小3での不登校者数の増加傾向が見られたことから、令和5年度より、教育支援員（元校長）を4名雇用しました。重点校として4小学校（滝呂小、根本小、小泉小、北栄小）の中学年において算数の学習支援にあたりました。
- ・小学校中学年時の学習を支援することで、学習のつまずきによる不登校を未然に防ぐことをねらいとしました。
- ・夏休みには、市内の小学校に在籍する小学2年生から6年生までの児童を対象に、「夏休み算数学習会」を2会場で14日間、午前、午後の計56回開催しました。教材については、タブレットのアプリ（GIFUWEBラーニング等）を活用し、個々の学力に沿ったものとししました。

期別	日程	学習内容
第1期	7/21 (金)、7/25 (火)	たし算（繰り上がり、筆算）
第2期	7/26 (水)、7/27 (木)	ひき算（繰り下がり、筆算）
第3期	7/28 (金)、8/1 (火)、8/2 (水)	かけ算（九九、筆算）
第4期	8/3 (木)、8/17 (木)、8/18 (金)	わり算（筆算）
第5期	8/22 (火)、8/23 (水)、8/24 (木)	文章問題
第6期	8/25 (金)	学習相談

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・教育支援員の人件費は人件費課

成果・効果

- ・教育支援員は、担任と教育支援の方向性を共通理解し、児童支援と担任の後方支援に努めました。初年度で手探りの状況ではあったが、できることから活動を始め、配置校の対象児童と該当学級の担任を対象にアンケートを実施（R5.12月）したところ、以下の結果となりました。

<職員アンケート（対象校4校の対象学級担任17人）>

- 児童が分からないことを気軽に相談できていた。 17人(100%)
- 子どもたちの学習意欲の高まりを感じた。 12人(70.6%)
- 学習に困る児童の助けとなった。 12人(70.6%)
- 各自じっくり考える姿が減った。 3人(17.6%)
- 児童の様子に変化はなかった。 0人(0%)

<児童アンケート（対象校4校の対象学級児童461人）>

- 分からないことを教えてもらってよかった。 357人
- 分からないことを質問しやすかった。 247人
- 自信がもてるようになった。 213人
- 算数が好きになってきた。 195人
- 挙手が増えてきた。 175人
- テストの点が上がってきた。 169人
- 励ましてくれて嬉しかった。 143人

- ・今年度初めて実施した「夏休み算数学習会」には、のべ134名が参加しました。1回の平均参加者は、約2.4人と参加者が少なかったこともあり、きめ細やかな指導ができたため、参加者から好評でした。また、学年をさかのぼり学習補充する機会となり、できるようになったことを具体的に認め、励まし続けることで、子どもの意欲向上を図ることができました。

令和6年度取組予定

- ・教育支援の対象を主に中学年としつつ、学校の実態に応じて効果的な活用を図ります。
- ・「夏休み算数学習会」については、今年度の課題を踏まえ、募集方法、テーマの設定等について修正を加え継続していきます。

(3) 校内教育支援室の充実

所属学級では授業に参加できない児童生徒が別の教室で学習できるよう、校内教育支援教室を充実させます。所属学級以外の居場所を学校につくことで、不登校の未然防止や学級に復帰しやすい環境をつくります。

担当課：教育相談室
R5 予算額： 0 千円
R6 予算額： 300 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・学校の相談室や空き教室を相談コーナーと学習コーナーに区切る等、児童生徒の目的に沿った学級以外の居場所となるよう校内教育支援室の充実を進めています。北陵中学校では、「相談スペース」「学習スペース」「リラックススペース」の3ブースに分け、教員とほぼえみ相談員との連携のもと、運営にあたっています。
- ・校内教育支援室を利用する児童生徒は、毎日の時間割を学級担任の指導を受け、自分自身で決定することができるようにしました。また、希望があれば通常学級の授業をオンラインで受講できるようにしました。学習したことはできる限り評価に反映しています。
- ・担任は、校内教育支援室を利用する児童生徒の一人一人の困り感、将来の不安等の相談を受け、利用方法について学年主任、教育相談担当者等とケース会議を行いました。

<主要な事業費（R5年度決算額）>

なし

成果・効果

- ・教育相談主任研修会において、校内教育支援室の役割について共通認識を図り、不登校の未然防止や学級に復帰しやすい居場所づくりとなるよう校内教育支援室の充実を図りました。また、各校の進捗状況についての資料を持ち寄り、情報交流することにより、他校のよい取組みを自校に生かせるように工夫しました。
- ・個のニーズに応じた校内教育支援室の利用を勧めたり、環境を整備したりしたことで、利用数が増加しました。

R4.12 (93人) → R5.12 (122人)

令和6年度取組予定

- ・モデル校（小中各1校）を設定し、環境整備をさらに推進します。また、モデル校では、校内教育支援室支援員を配置し、校内教育支援室での指導の充実を図ります。
- ・教育相談主任研修において、各校の取組みを交流し、よりよい運営について引き続き検討していきます。

(4) さわらび学級の機能拡充

さわらび学級では、不安や悩みなどがある不登校児童生徒の情緒の安定を図るよう臨床心理士によるカウンセリングを定期的に行い、個々のニーズに応じた支援体制を整備します。また、さわらび学級、教育委員会、学校が連携して学校復帰や社会的に自立する力を養うことをめざします。

担当課：教育相談室
R5 予算額：2,403 千円
R6 予算額：1,949 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・学習活動、個に応じたチャレンジ活動、体験活動等を通して児童生徒の社会的な自立をめざす取組を行いました。(例：学校チャレンジ※、芸術鑑賞、陶芸体験)

※さわらび職員が登下校に付き添うことで、児童生徒に学校へ足を向けるように促す取組み

- ・学校生活に不安や悩みのある児童生徒や保護者のために、「さわらびほっとサロン」を年間25回、各地区の公民館や児童センター等で開催しました。(6人参加)
- ・キキョウフレンド(大学生支援員)が自宅に閉じこもり傾向のある児童生徒と接点を持ち、話し相手や学習指導等の支援を行いました。

キキョウフレンド(7名)

参加回数(33回)

- ・臨床心理士による定期的なカウンセリングを実施しました。(月1回)

<主要な事業費(R5年度決算額)>

- ・防犯カメラ設置工事 682千円
- ・AVレシーバー 82千円

成果・効果

- ・学校に復帰するだけを目的とするのではなく、子どもの居場所としての位置付けをすることで、令和4年度本通級11名から令和5年度本通級17名に利用を促すことができました。
- ・長期休暇の前後に「学校チャレンジ」の日を設定したことで、今まで学校に行けなかった児童生徒が、学校に行けるようになることができました。

令和6年度取組予定

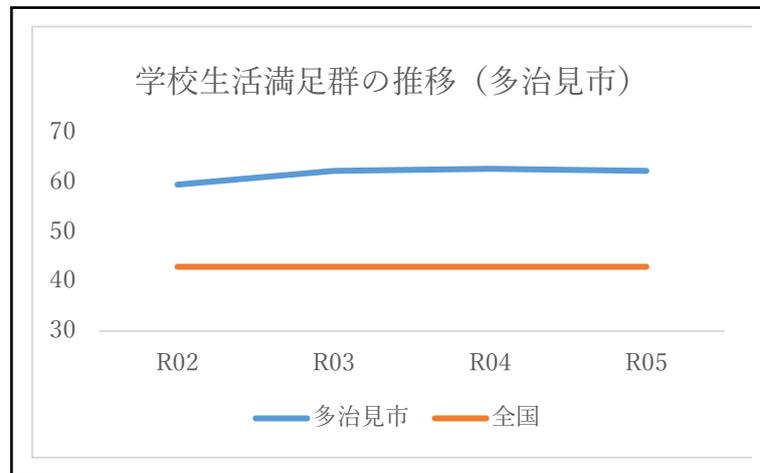
- ・さわらび学級の目的を学校復帰のみでなく、子どもの居場所として位置づけるよう整理し、規則改正を行います。
- ・「さわらびほっとサロン」を活用し、各地域での居場所づくりを推進していきます。
- ・さわらび学級の開校時刻を早め、朝早く起きて活動する習慣が身に付くようにしていきます。

● 計画の成果目標

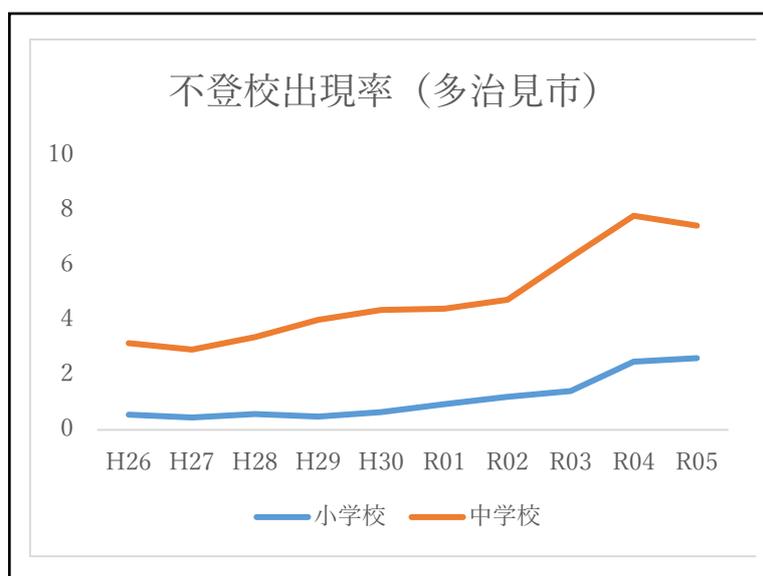
いじめの解消率		
基準値(令和4年度)	現状(令和5年度)	目標(令和9年度)
99.6% (令和3年度結果)	98.5% (令和5年度結果)	100.0%

R5年度いじめ事案(多治見市)		R6.7月時点		
	いじめ認知数(件)	解消数(件)	未解消数(件)	解消率(%)
小学校	605	595	9	98.5
中学校	54	53	1	98.1
合計	659	649	10	98.5

「hyper-QU」における学級生活満足群※ ※学級生活満足群・・・自分の居場所をもち、自分の価値を認められていると思っている集団		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
60.3% （令和3年度結果）	62.4% （令和5年度結果）	62.0%



不登校者の割合※ ※不登校者数・・・年間30日以上学校へ登校できなかった者のうち、病気や経済的な理由を除いた者		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
小学校 1.4% 中学校 6.3% （令和3年度数値）	小学校 2.6% 中学校 7.4% （令和5年度数値）	小学校 1.0% 中学校 5.0%



2 特別支援教育における支援体制の充実 (教育相談室) (子ども支援課)

● 事業内容

(1) 乳幼児期から学齢期にかけての切れ目のない支援

障がい児巡回支援専門員及び教育相談室相談員による、幼稚園・保育園、小学校、中学校への訪問指導を実施し、切れ目のない支援をします。必要に応じてケース会議を開き、具体的な支援方法についての情報共有や関係諸機関との連携を図ります。また、子どもの発育状況や特性を記したスマイルブックを活用し個別の教育支援計画を作成するとともに、キキョウスタッフが支援員として学校生活をサポートします。

担当課：教育相談室
R5 予算額： 225 千円
R6 予算額： 225 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・年4回の巡回相談（第1回：新規児童生徒 第2回：新就学児童並びに支援学校を検討する児童生徒 第3回：特別支援学級、通級継続児童生徒 第4回：4歳児）を行い、就学等支援委員会において、学びの場の相談や方向性を確認しました。
- ・巡回相談とは別に小中学校においては「支援相談」として学校のニーズに応じて特別支援加配教頭、指導教諭とが訪問し指導や助言をしたり、ケース会議に参加したりしました。
- ・幼稚園・保育園においては障害児巡回指導専門員が各園の要望を受け訪問し、助言を行いました。
- ・キキョウスタッフを小学校39名、中学校5名配置しました。主に通常学級において支援が必要である児童生徒の学校生活のサポートを行いました。

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・小学校キキョウスタッフ校外活動負担金 135千円
- ・中学校キキョウスタッフ校外活動負担金 5千円
- ・キキョウスタッフの人件費は人件費課で計上

成果・効果

- ・特別支援加配教頭・指導教諭による「支援相談」を実施することで、学校の支援体制の仕組みを構築することができました。

令和6年度取組予定

- ・キキョウスタッフ小学校39名、中学校6名の配置を推進します。
- ・特別支援加配教頭、指導教諭による「支援相談」の充実を図ります。

(2) 看護師の確保・配置による医療的ケア児への支援

医療的ケア児が増加傾向にあることを踏まえ、受け入れ体制や管理体制を整えます。

担当課：教育相談室
R5 予算額：—
R6 予算額：255 千円

令和5年度取組・実績
<p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精華小学校に学校看護師を1名配置しました。 ・2名の医療的ケア児の医療的ケアを行いました。(実測による血糖値測定及びインスリンポンプによるインスリン注入1名、自己導尿の補助見守り1名) <p><主要な事業費（R5年度決算額）></p> <p>なし（学校看護師の人件費は人件費課で計上）</p>
成果・効果
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担が軽減されたことはもちろん、学校看護師が配置されたことで、児童の観察見守りができ、医療的ケア児が安心して学校生活を送ることができました。
令和6年度取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアガイドラインに沿った医療的ケア児の受け入れや、受け入れ体制の構築を引き続き行っていきます。 ・医療的ケア運営協議会を設置し開催します。(第1回会議R6.7月予定)

(3) 発達相談支援体制の充実

学校、教育委員会、保健センターが連携し、発達支援の必要な子どもや保護者が相談できる環境を充実します。WISC*等の検査結果を指導、支援に生かします。

担当課：教育相談室
R5 予算額：1,993 千円
R6 予算額：2,211 千円

※WISC・・・ウェクスラー式の児童用知能検査

令和5年度取組・実績
<p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の発達特性を保護者や学校が理解し、支援方法を共有し、自立できる力を伸ばすために、臨床心理士による wisc-IV 検査を実施しました。事前面談、検査、事後指導を1回として、年間40回実施しました。さらに、後追い調査を実施し、検査後の児童生徒の変化について検証しました。 <p><主要な事業費（R5年度決算額）></p> <p>発達相談指導員謝礼、臨床心理士相談員謝礼 1,915 千円</p>
成果・効果
<ul style="list-style-type: none"> ・個の発達特性を保護者や学校が理解することにより、個に応じた指導・支援に結び付けることができています。また、後追い調査を実施することにより、指導・支援の効果を検証し、よりよい対応を目指し検討することができました。
令和6年度取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・より細かな個の特性を理解することができるようにするため、発達検査を wisc-IV から最新版の wisc-V に切り替えます。 ・年間40回分の検査及び後追い調査を継続し、個の発達特性を生かしたよりよい支援を引き続き実施します。

(4) 特別支援教育コーディネーターの専門性の向上

特別支援教育コーディネーターが他校種の活動参観や授業参観、情報交流、事例検討会を通し専門性を高め、園や学校の職員に周知するように努めます。

担当課：教育相談室
R5 予算額： 962 千円
R6 予算額： 988 千円

(5) ユニバーサルデザインの授業づくりの推進

特別な教育的支援が必要な児童生徒だけでなく、全ての児童生徒にとって安心して学習できる居心地のよい環境を整えます。また、「分かる」「できる」ように工夫・配慮された授業を構築することを推進します。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・特別支援教育コーディネーター研修会を年間5回実施しました。
 - 第1回（5/11）特別支援に関わる手続きや教育支援体制の在り方について
 - 第2回（7/14）発達検査の見方活用についての研修（八百津教育委員会 武市先生の講話）
 - 第3回（8/22）インクルーシブ教育についての研修（兵庫教育大 宇野教授を招いて研修）
 - 第4回（10/30）後期における園内・校内の就学支援についての計画
 - 第5回（2/21）中学校区別研修の交流・次年度の計画
- ・読むことの苦手な児童・生徒に対してデジジー教科書を使用できるようにしました。（市がライセンスを契約し、希望のあった学校で使用。小学校12校95名、中学校6校22名）
- ・個の学び方の違いに対応できるよう、希望者が国語のデジタル教科書を使用できるようにしました。（小学校：40名、中学校12名）
- ・巡回相談や支援相談で学校を訪問した際に、児童生徒の現状把握だけでなく、教材提示の仕方の工夫についても助言しました。

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・インクルーシブ教育推進委員会（年3回）委員謝礼 120千円
- ・補聴援助器具（Roger パスアラウンドマイク、タッチスクリーンマイク） 228千円

成果・効果

- ・第3回の研修では市内の特別支援教育コーディネーターが「インクルーシブ教育」について直接意見交流し、理解を深めることができました。
- ・中学校区別研修は、3年目に入り、校区特別教育支援コーディネーターのつながりが構築されてきています。
- ・デジタル教科書やデジジー教科書を使用することにより、発達障がいや外国籍などの支援を必要とする子どもが「分かる」「できる」ように環境を整えることができました。



8/22 会議の様子

令和6年度取組予定

- ・特別支援コーディネーター研修会を年間5回引き続き行っていきます。
- ・中学校区別研修を引き続き行っていきます。
- ・デジジー教科書、国語のデジタル教科書が利用できるよう引き続き環境を整えていきます。
- ・巡回相談・発達支援相談を活用し、工夫配慮された授業の構築に向けて助言を行っていきます。

● 計画の成果目標

特別支援学級所属の児童生徒及び通級指導教室の児童生徒のスマイルブック所持率		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
44.3%	46.4%	70.0%

3 個々の教育的ニーズに応じた支援 (教育推進課)

● 事業内容

(1) 経済的な支援を必要とする児童生徒への支援

経済的な理由で就学困難な児童生徒の保護者に対して、学用品、学校給食費、修学旅行費等の就学援助費を支給します。また、経済的な理由で進学を諦めることのないよう高校生、大学生への給付型奨学金制度についても周知します。

担当課：教育推進課
R5 予算額：70,265 千円
R6 予算額：69,421 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・令和5年度の要保護・準要保護者への後期支払実績は、小学校374人、中学校235でした。
- ・翌年度小・中学校に入学する新1年生に新入学児童生徒学用品費の支給を行いました。令和6年3月末までに新小学1年生44人、新中学1年生63人に支給しました。(小学校54,060円、中学校63,000円)
- ・就学援助制度の周知方法としては、ホームページやラジオを活用したり、就学時健診のお知らせに同封したり、新入学説明会の際に文書を配布したりしました。さらに、経済的に困難な家庭にはSSWを通じ、就学援助制度を積極的に活用していただけるように案内しました。
- ・タブレット端末を活用した家庭学習をすることができる環境を整えるため、新規でインターネット環境を整備する経済的な支援が必要な家庭へ補助を行いました。

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・現金給付（小学校費） 30,004 千円
- ・現金給付（中学校費） 27,849 千円
- ・インターネット環境整備補助金 40 千円（内 小学校費 20 千円、中学校費 20 千円）

成果・効果

- ・経済的に困難な状況にある家庭に、学用品費、学校給食費、修学旅行費等を支援したり、新入学児童生徒学用品費（ランドセルや制服等の事前準備費用）を支援したりして、義務教育の円滑な実施や教育の機会均等の実現につなげました。
- ・広報ツールの活用や関係機関との連携を図り、制度の周知を実施しました。

令和6年度取組予定

- ・経済的に困難な家庭に支援が行き渡るように、制度の周知を引き続き徹底します。
- ・就学援助システムの標準化に向けて、円滑に移行できるように要綱等の見直しを行います。

(2) 日本語指導の必要な児童生徒への個々の状況に応じた支援

日本語指導の必要な児童生徒が安心して学校生活を送るとともに、将来社会で活躍していくための素地を養うために、外国籍等児童生徒相談員等による就学から進路選択まできめ細やかな支援を提供します。

担当課：教育推進課
R5 予算額：1,359 千円
R6 予算額：1,361 千円

また、授業のサポート及び長期休暇期間中の学習会等の学習支援だけでなく、日本語が理解できない保護者支援を含む家庭支援等の総合的な支援を行います。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・海外からの移住及び帰国した児童生徒のうち、日本語の理解や学校生活への適応が困難な者に対して、相談員1名と支援員8名が日本語支援を行いました。令和6年3月時点の支援者数は、小学校24人、中学校17人でした。主な国籍は、フィリピン、ブラジル、中国、ペルー、スリランカ等です。
- ・相談員は、日本語支援のほかに、児童生徒の日本語の理解度を把握したり、保護者に対するヒアリングや学校と保護者の連絡調整を行ったり、多言語通訳人の派遣、支援員の配置・指導方法の助言を行ったりしました。
- ・長期休暇中は、日本語要支援の児童生徒を対象とした学習会を開催しました。(春休み3日間・12人参加、夏休み19日間・41人参加、冬休み4日間・23人参加)
- ・小学校高学年及び中学生とその保護者を対象にした多言語進学説明会を8月に開催しました。(4言語、43人参加)

<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・外国籍等通訳・翻訳支援費 988千円
- ・外国籍等児童生徒支援員市内出張費用弁償 393千円



<長期休暇中の学習会>

成果・効果

- ・転入直後から「個別の日本語指導計画」を作成し、適切な日本語初期指導を実施し、学校へのスムーズな転入を可能にしました。
- ・相談員・支援員の巡回支援により、多くの児童生徒を平等に支援することができました。
- ・長期休暇中の学習会では、複数校に散在する児童生徒が一同に集い、日本語や宿題の学び合いの場が生まれ、休暇明けには、自信を持って登校することができました。
- ・英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、中国語、バングラデシュ語、タイ語等の登録通訳人により、懇談通訳や学校通信翻訳を多言語化し、より保護者や児童生徒の安心を得ることができました。

令和6年度取組予定

- ・児童生徒や保護者の負担を考慮し、相談員・支援員の学校巡回支援を継続します。
- ・長期休暇中の学習会(春・夏・冬)を複数の公共施設で開催します。
- ・児童生徒、保護者のニーズに応じた言語による多言語進路説明会を開催します。

● 計画の成果目標

日本語指導が必要な児童生徒のうち「学校が楽しいと思いますか」のアンケートで「とても思う」「思う」と回答した割合

基準値 (令和4年度)	現状 (令和5年度)	目標 (令和9年度)
小学校 100% (22/22人回答)	小学校 96%、26人(27/32人回答)	小学校 100%
中学校 87.5% (7/8人回答)	中学校 92%、12人(13/18人回答)	中学校 100%

4 学童保育（たじっこクラブ）の充実（教育推進課）

● 事業内容

(1) 施設面と運用面における受入体制の充実

保護者の就労支援、子どもたちの居場所づくりとして安心安全に過ごし学べる「たじっこクラブ」とするため、利用区分や定員等の運用の見直し、保育室の増室等の環境整備に努めます。運用面については、令和5年度から、土曜日と夏休みの開所時間を早い時間に統一するとともに、利用区分を利用時間に合わせ2段階から3段階に増やすことによりサービスの向上に努めます。

(2) 支援員の質の向上をめざしたクラブ間の研修や交流の開催

支援員の質の向上を図るために支援員の認定資格の取得の推奨や各種研修に参加するよう勧めます。運営課題に応じた研修や支援員同士の交流を図ることでトラブルへの対処方法を共有します。

担当課：教育推進課
R5 予算額：293,710 千円
R6 予算額：287,025 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・利用区分を2段階（午後5時まで（基本登録）と午後7時まで（延長登録））から3段階に増やし、新規区分（午後6時まで）を追加しました。また、休業日の開始時刻を全利用区分午前7時30分としました。（令和4年度までは基本登録の場合、午前8時30分～）
午後5時まで利用 通年利用：4,000円/月（8月のみ8,000円）
午後6時まで利用 通年利用：6,000円/月（8月のみ12,000円）
午後7時まで利用 通年利用：7,000円/月（8月のみ14,000円）
- ・令和4年度に運営法人選定プロポーザルを実施した結果、令和5年度から5年間、4法人（NPO法人つちびと、(株)ハリカ多治見、(株)明日葉、労働者協同組合ワーカーズコープ）に運営を委託することになりました。
- ・令和4年度の待機児童発生を鑑み、「精華小」「昭和小」「小泉小」のクラブについて、運営法人等と協議し、定員を増やしました。（通年利用：3クラブ5人増員、夏休み利用：「小泉小」で5人増員）
- ・令和5年5月1日時点の待機児童は3人（精華小2人、小泉小1人）でしたが、5月末までには解消しました。

<主要な事業費（R5年度決算額）>

放課後児童健全育成事業委託	226,774 千円
放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業	9,389 千円
放課後児童支援員等処遇改善事業	8,206 千円

成果・効果

- ・利用区分を追加したことにより、保護者が就労状況等に合わせ利用区分を選択することができ、利便性の向上を図ることができました。
- ・放課後児童支援員等への各種処遇改善事業の実施や各種研修への参加を推進することにより、各運営法人において放課後児童支援員等への賃金改善及び資質向上を図ることができました。

令和6年度取組予定

- ・市全体の児童数は減少するものの、校区によっては利用率が増加する傾向があるため、定員設定や環境整備を早急に進める必要があります。各クラブの利用人数と定員数の長期的な推移を予測・分析し、適切な定員数となるよう運営法人と協議を進めていきます。

(3) 第三者委員会による適切な事業評価

法人の運営方針、活動状況等を年1回第三者委員会による事業評価を受け、民間法人による安定したクラブ運営を提供していきます。

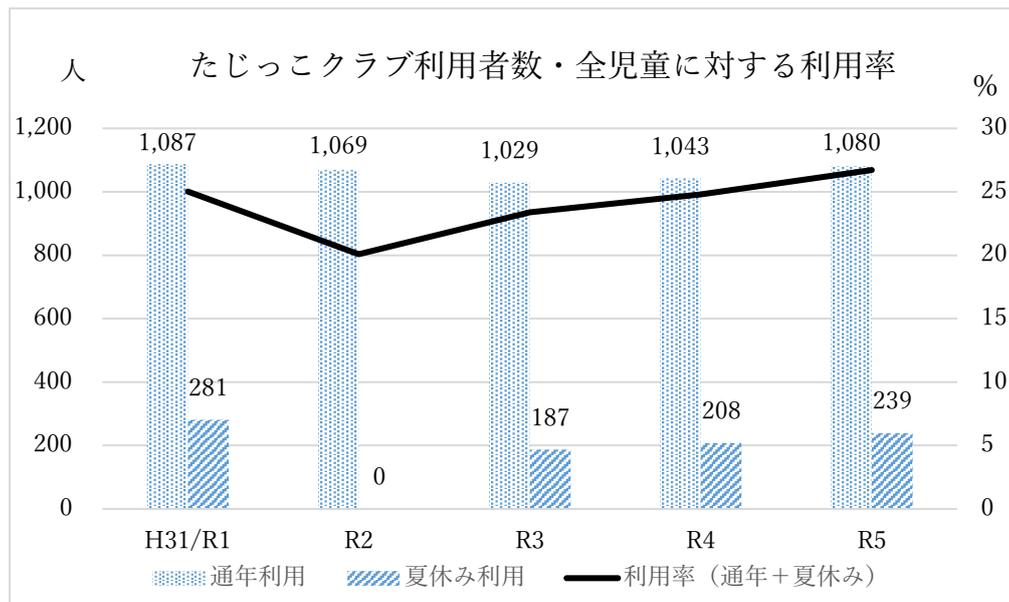
令和5年度取組・実績
<p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たじっこクラブ業務受託運営法人（2法人）の令和4年度の運営方針、活動状況等について、第三者委員会から事業評価を受けました。両法人とも極めて良好であるという評価でした。（令和5年11月30日） ・第三者委員会の各委員（学識経験者、たじっこクラブ保護者、主任児童委員、学童保育コーディネーター、市担当課長）からは、具体的に活動内容の良い点や課題を提示してもらいました。 <p><主要な事業費（R5年度決算額）></p> <p>委員等謝礼 20千円</p>
成果・効果
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員会において、様々な立場の委員の意見を教育委員会と運営法人で共有することで、たじっこクラブのより良い運営に向けた意思統一を図ることができました。 ・第三者委員会の事業評価を行うことで、たじっこクラブの水準を一定以上に保つことができ、利用児童の安全確保及び健全育成を図ることができました。
令和6年度取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員会の開催を毎年6月とし、運営法人が前年度の事業評価を当年度の活動に生かすことができるようにします。

● 計画の成果目標

待機児童数		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
10人（令和4年度5月1日現在） ※夏休み前には待機児童解消	3人（令和5年度5月1日現在） ※5月末には待機児童解消	0人

たじっこクラブは楽しいですか（児童）		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
—	94.2%	90.0%

たじっこクラブの保育内容について満足していますか（保護者）		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
—	98.1%	90.0%



校区	クラブ名	実施場所	R5 からの運営法人	R4 運営法人
養正	養正小たじっこクラブ	養正小学校内	NPO 法人 つちびと	NPO 法人 つちびと
精華	精華小たじっこクラブ	精華小学校内		
小泉	小泉小たじっこクラブ	小泉小学校内		
市之倉	市之倉小たじっこクラブ	市之倉小学校内		
滝呂	滝呂小たじっこクラブ	滝呂小学校内		
脇之島	脇之島小たじっこクラブ	脇之島小学校内		
笠原	笠原小たじっこクラブ	笠原小学校内		
南姫	南姫小たじっこクラブ	南姫小学校内	(株)ハカ多治見	(株)ハカ多治見
根本	根本小たじっこクラブ	根本小学校内	(株)明日葉	(株)ハカ多治見
北栄	北栄小たじっこクラブ	北栄小学校内		
共栄	共栄小たじっこクラブ	共栄小学校内	労働者協同組合 ワーカーズコープ	(株)ハカ多治見
昭和	昭和小たじっこクラブ	昭和小学校内		
池田	池田小たじっこクラブ	池田小学校内		